

2学期は、1年間で真ん中に位置する重要な学期です。

1年生は、先輩方が築いてきた伝統をしっかりと受け継ぎ、授業や行事に励み、1学期よりレベルアップしたと言えるよう、目標を高く定め、実行して欲しいと思います。

2年生は、部活動をリードするなど、学校の中心として活動する立場となります。上級学校調べが本格化するなど、進路学習に力を入れ、最高学年に向けた言動を期待します。

そして3年生。卒業への足音が日増しに感じられる頃となります。受験は「団体戦」と言います。全員で授業を大切にしながら、自分の進む道をはっきりと定められるよう、時間を有効に活用する生活を送って欲しいと思います。

さて皆さん、「本当に強い人」とは、どのような人のことを言うのでしょうか。今から36年前の1984年に行われた、ロサンゼルスオリンピックの柔道に出場し、金メダルに輝いた山下泰裕選手の次の言葉から、学んで見ましょう。

「柔道で勝つことも大切で強くなるのも大切だが、それだけでは十分ではない。柔道を通して培ったものを学んだことをこれからの生活に生かしていくことが大切である。柔道をやっている人はみんな挨拶がきちりできる。それは自分の先生だけではいけない。お父さん、お母さんにもきちりできなければいけない。電車やバスでおじいさん・おばあさんに席をゆずったり、重い荷物を持っていたら代わりに持ったり、あるいは誰かがいじめられていたら、「やめろよ」とそういう風なものが道場で培ったもの、得たものである」

山下選手は、本当に強い人とは、素直な気持ちや感謝の念が持てる人、相手を思いやれる心の優しい人のことであり、そういう人になって欲しいと言っているのだと思います。

コロナウイルスの感染拡大にともない、感染者家族を傷つけるコメントをSNSにのせたり、感染の疑いがあるというだけで差別や偏見の目で仲間をみたりするなど、心が痛む報道を度々耳にします。私は「もし自分が相手の立場になったら」と置き換えつつ、他人をきびしくとがめだてせず、よく人を受け入れることが大切だと考えます。この意味をもつ言葉を「寛容」と言います。まず、広い心で相手に接する「寛容」の精神は、本当に強い人間となる第一歩だと思っています。

結びに、先日、野球界の選手かつ監督として有名であった長嶋茂雄さんの新聞記事を目にしました。「いいか、開幕してまだ辛い成績かも知れないが、この先、もっと苦しい、つらい状況がやって来るぞ。しかし、それを私たちチームは乗り切れるはずだ。そういうチームにしようじゃないか」です。

今学期も井波中学校一丸となって、新しい生活様式への意識をより高め、検温や手洗いなどの健康最優先のもと、逞しい生活を送りましょう。